

奈良教育大学附属小学校問題についての声明文

昨年から報道されている通り、奈良教育大学附属小学校で行われている教育課程について、学習指導要領に照らして「不適切」だと変更を要求されています。

奈良教育大学附属小学校では、地域や子どもたちの実態を踏まえて創造的な教育課程を作成して教育実践を積み重ねてきていました。ところが奈良教育大学への学校外部からの声をきっかけにして、大学当局は学習指導要領から外れているかどうかをチェックし、これまでの教育課程が誤りであったと断定しています。

学習指導要領は「教育課程の基準を大綱的に定めるもの」であり、各学校ではそれを基にして地域や子どもの実態に応じて教育課程を編成することになっています。奈良教育大学附属小学校の「みんなのねがいのできる学校」を理念とした教育実践は高く評価されてきています。今回の事案はその優れた教育課程や教育実践を一方的に否定するものです。

さらに、これまで学校づくりを担ってきた多くの教職員を、意向を無視して公立学校に「出向」させようとしています。多くの教職員を異動させることについては、すでに子どもたちや保護者には大きな不安と動揺を与えています。

奈良教育大学は、未来の教職員を育成する使命を担っている教育大学です。奈良教育大学附属小学校への権力的な介入を直ちに中止し、教職員との丁寧な対話によってより良い教育課程づくり・学校づくりを行うことを求めます。

2024年3月6日

全生研常任委員会